

福岡外環状道路を走るバス路線 本格運行への取り組み

福岡市 住宅都市局 都市計画部 交通施策推進課

1. 取り組みの概要

福岡市の市街地の南縁部をバイパスする国道202号福岡外環状道路（以下「外環状道路」）沿線には、多数の病院が立地し、主要な病院だけでも病床数は4,000床を超えます。病院もそれぞれ関連があり、外環状道路が完成するとますます相互の連携を深めることが可能となりますが、外環状道路を運行する公共交通がないため、多くの病院関係者や地域住民からバス路線の新設を求める声が数多くあがっていました。



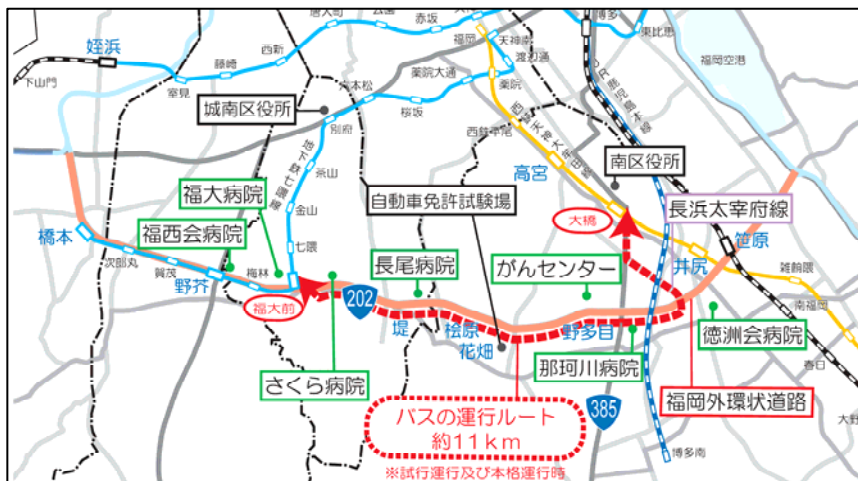
写真： 本路線専用のラッピングされた車両

外環状道路の積極的な活用を図るバス路線の運行実現にむけて、平成19年秋に地域有志や病院関係者などが中心となり、行政側に働きかけ、平成20年に国土交通省九州地方整備局、病院関係者、福岡市による「新たなバス路線設置構想に関する勉強会」が発足しました。これと並行して、外環状道路沿線7病院の協力により通院等の来院者の交通実態調査が行われ、需要推計の結果来院者の約半分がバスを利用することが見込まれました。

平成21年には「第1回福岡外環状道路の利用増進に向けた方策検討会」が発足し、病院・行政・交通事業者が協力して取り組みを進め、あしかけ3年の検討の末、平成23年1月から4月まで社会実験として、外環状道路を走るバス路線、いわゆる「外環バス」の試験運行にこぎ着け、一定の成果をあげることが出来ました。

平成23年4月29日には待ち望んだ外環状道路の全線4車線（16.2km）が供用となり、新たな交通状況の変化と社会実験の成果を生かし、地域住民や病院・企業と行政が協力して早期の運行再開に向けた取り組みを地道に展開しました。

その結果、平成23年10月31日から西日本鉄道（株）による1年間の試行運行が始まりました。利用者数は当初平日1日平均800人に満たず、路線として定着するためには、さらなる利用促進が必要であり、産・官・民がスクラムを組んで利用促進に取り組み、1年後には平日1日1,200名近くまで伸びたことから、平成24年10月31日から本格運行が実現したものです。



左図： 外環バス本格運行ルート図

2. 主な経緯

平成19年	地域有志や病院関係者による外環状道路の積極的な活用を図るバス路線新設の要望
平成21年 8月	「福岡外環状道路の利用増進に向けた交通体系の方策検討会」立ち上げ
平成23年 1月	社会実験の開始 （実施期間 H23.1.29～H23.4.24）
平成23年 3月	福岡外環状道路を活用した新たな交通体系のあり方シンポジウム
平成23年 5月	「外環状道路に公共交通を実現する会」から要望書提出 （沿線校区自治協議会、沿線病院等から署名 3,527名）
平成23年10月	1年間の試行運行開始 （実施期間 H23.10.31～H24.10.30）
平成24年 4月	中間報告会、アンケート調査
平成24年 6月	バスラッピングの実施、周知広報のチラシ配布、町内会の回覧協力
平成24年 7月	地域協力によるバス停新設、ダイヤ改正とこれに伴う試行運行期間中における利用促進チラシ配布
平成24年10月	本格運行へ移行

3. 産官民による取り組み

本事業を通して顕著だったのは、産官民の連携が密であった点です。特に社会実験から試行運行時においては、地域住民、病院関係者、交通事業者、行政機関等が互いに連携し、協力して利用促進の取り組みを実施することができました。

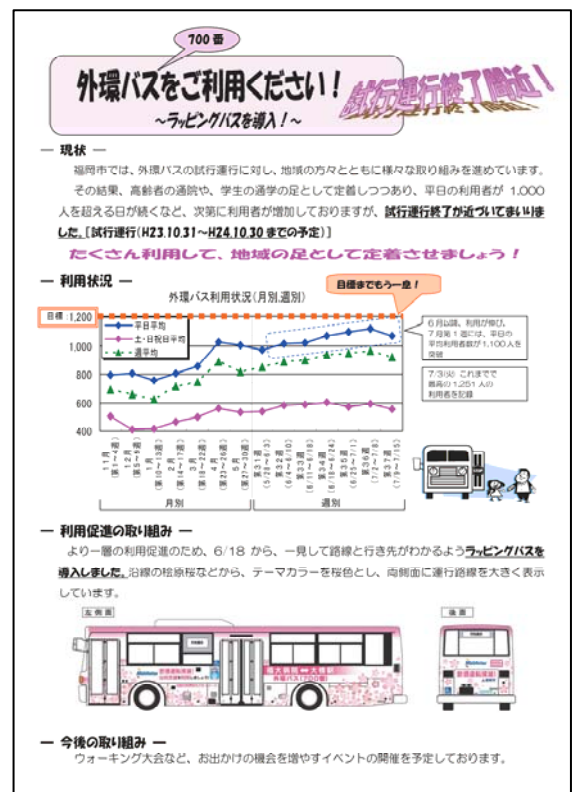
地域住民

外環状道路沿線の校区自治協議会・社会福祉協議会ならびに老人福祉クラブによる協力体制により、利用促進チラシの各戸配布やポスターの掲示等に尽力いただきました。地域の行事や催し開催時においても、外環バス路線の周知広報・利用の呼びかけを実施されています。

病院関係者、民間事業者等

沿線の8病院（九州がんセンター、福岡大学病院、福岡病院、さくら病院、長尾病院、那珂川病院、徳洲会病院、福西会病院）にポスター掲示とチラシの配布をお願いし、来院者に利用を呼びかけていただきました。

また、沿線の福翔高校や福岡大学、企業等においても、ポスター掲示とチラシの配布をお願いし、利用を呼びかけていただきました。さらに、福岡自動車運転免許試験場には卒業時期を迎え自動車免許取得をめざし受験者が増えることから、福岡地区の指定自動車教習所13校に対し、



図： 地元配布チラシ

試験場への交通は外環バスを利用するようポスターの掲示とチラシの配布をお願いしました。

交通事業者

バスの運行をお願いするとともに、採算性・利用者の利便性を考慮した事業計画の検討、利用状況の分析等を実施していただきました。

また、利用促進策の一環として、バス停標柱への特別デザイン設置を実施されています。「桧原桜前」バス停は、道路工事のため伐採寸前だった桜の木に市民が桜の助命嘆願の短歌を吊り下げ、それを知った当時の福岡市長が返歌を下げ、道路計画の変更につながったという「桧原桜」のエピソードを持つ桧原桜公園に近接した地点に、外環バスの運行にあたって新設したものです。このバス停に地域住民に親んでいただくため、交通事業者により、桜をあしらったデザイン標柱が設置され、沿道の風景に彩りを添え、利用促進に一役買っています。



写真： 「桧原桜前」バス停

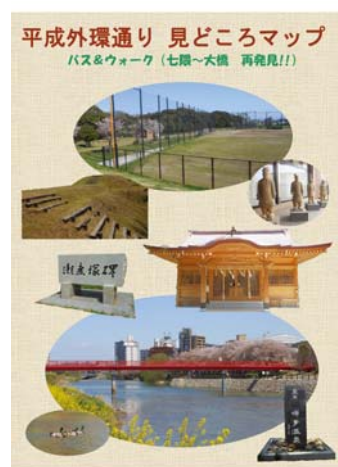
行政機関

バスベイ整備にあたっては、福岡国道事務所に協力をいただきました。社会実験時、福岡県警との協議の過程で、本格運行にあたってはバスベイを設置することが求められ、懸案となっていました。このためバスベイ整備の進め方について、本市道路下水道局を中心に道路管理者との協議を進め、福岡国道事務所が計画的に整備を進めることが決まりました。その後、試行運行期間中において、緊急性の高いバスベイから工事が進められました。

本市の取り組みとしては、社会実験の実施とともに、路線の周知・広報活動が挙げられます。外環バスが運行する路線沿線の花見名所を紹介するチラシや、歴史・自然を紹介するチラシを職員自ら作成し、区役所・公民館・沿線病院等に配布するとともに、イベント時に配布を行っています。

また、通行するドライバーの視覚に訴えることで公共交通の利用促進を図り、一見して路線と行き先が直感的にわかるようにすることで利用者の行き先への不安感を解消することを目的として、桜をイメージしたラッピングバスを外環バスとして運行している全バス5台に導入しました。

導入1ヶ月後に行ったアンケート調査では、「一見して行き先がわかる」など、効果を評価する意見が多数を占めました。また、平成25年3月に行われた市内を運行するフルラッピングバスの



図： 外環状道路沿線散策マップ（左：春版 右：秋版）

広告デザイン人気投票において、98票で3位を獲得しています。(ラッピング期間は平成25年4月末まで)



図：桜をイメージしたラッピングバス

4. 本格運行への移行

本格運行へ向けた様々な取り組みの結果、地域住民への周知も徐々に浸透し、このバスの利用者数も増加傾向を維持してきました。交通事業者である西日本鉄道(株)は、今後の運行に関する検討を進めてきた結果、事業としての採算ラインには届いていない状況ながら、

○目標人員(1,500人/日)の達成まであと一歩ということ

○地域住民から路線存続への強い要望があり、継続的な利用促進への協力体制があること

○沿線地域における当該路線が果たす公共交通ネットワークとして重要であること

などから、土日祝日のダイヤを一部改正した上で本格運行を行うことを決定し、平成24年10月3日、外環バスの本格運行移行が発表されました。

5. 本格運行後の取り組み

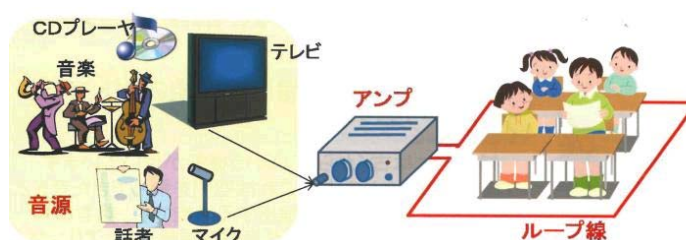
本格運行決定以降も、地域・病院・交通事業者・行政による利用促進の取り組みを継続しており、利用者も増加しています。

○ヒアリング・ループ実験

『ユニバーサル都市・福岡』の実現に向けた南区役所による「耳バリアフリープロジェクト」の一環として、外環バス5台の車内に、バス車載型磁気ループ補聴システム※「ヒアリング・ループ」を設置し、乗車中のお客様が誘導コイルを内蔵した補聴器を利用することで、バス車内の音声案内を聞き取りやすい環境へ改善する実験を行いました。

※「ヒアリング・ループ」:

スピーカーから音を出す代わりに、ループ状の電線(ヒアリング・ループ)に音の電流を流し、音声信号として磁界を空中に放出。この磁界の音声信号を補聴器や人工内耳に内蔵されている「Tモード」などで聞くシステム。



【外環バス車両での表示】

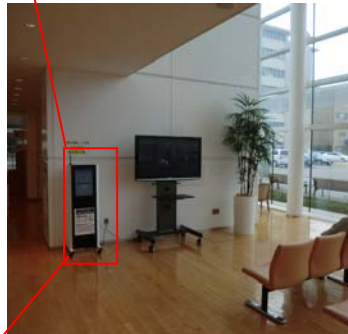
路線を運行する全5台に表示。(写真はヒアリング・ループ設置車両を示す車両貼付マーク)



○バスナビジョン設置



西鉄と福岡大学病院の協議により、福大病院バス停における乗り継ぎ利便性の改善のため、平成25年3月25日に、福大病院待合室内にバス接近案内表示板「バスナビジョン」を設置しました。



写真： バスナビジョン設置状況

○平成外環通りウォーキング大会

福岡外環状道路の全線4車線開通1周年を記念して、「平成外環通り」の愛称が命名されたことや、外環バスの本格運行を受けて、外環状道路の活用と外環バスの利用促進、市民の健康づくりなどの観点から、沿線の自然を楽しみながら散策するウォーキング大会(約5km)を開催しました。

(第1回大会)平成24年11月24日(土)開催

- ・夜半より降りだした雨があがらず、また気温も低かったものの、大勢の市民に参加していただき、盛況に開催することができました。

(第2回大会) 平成25年5月18日(土) 開催

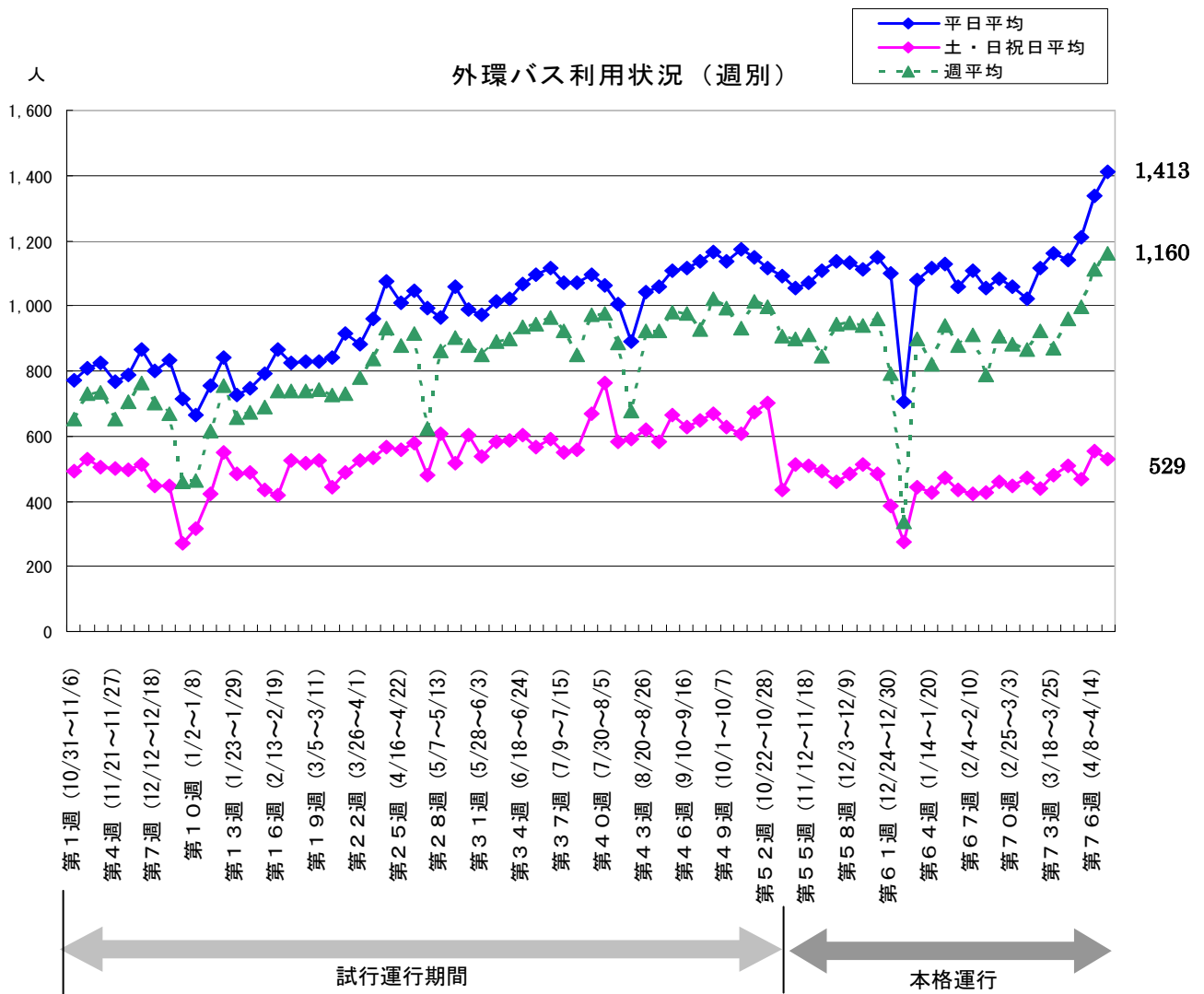
- ・好天に恵まれ、さわやかな陽気の中、大勢の市民に参加していただき、大盛況のウォーキング大会となりました。



写真： 第2回大会の様子

○利用実績 (平成25年4月22日まで)

平成25年度に入り、ICカード、定期券利用の乗客の増加により、平成25年4月17日に平日平均の過去最高値である1,591人、同週に平日週平均の最高値1,413人を記録するなど、更なる利用の定着・増加が見られています。新学期が始まり、学生の利用増加が大きく影響していると考えられます。



※データ：西日本鉄道(株)提供

6. 今後の課題

交通手段としての一層の利便性向上のため、交通事業者と協力して、バス停の増設や整備、乗り継ぎ環境やダイヤ改善などの検討を進めていく必要があります。

また、利用者数は増加傾向にあるとはいえ、いまだ目標値には届いていないことから、今後も引き続き利用促進に取り組み、利用者の増加・定着を図る必要があります。南区・城南区の各校区自治協議会及び地域住民の方々に外環バスの利用促進に向けて協力の要請を引き続き行ってまいります。

さらに、桧原桜を代表とする桜の名所巡りや沿線の公園施設と連携したウォーキング大会など外環バスを利用するイベントを企画して利用促進を図ります。これらのイベントが恒例行事となり、バス利用だけでなく沿線の地域おこしなどにつながることを目指します。

今後とも、更なる利用促進を呼びかけ、バス路線としての定着・充実をめざして地域、交通事業者と行政が共働して取り組んでまいります。